

心をつなぐ音楽を

校長 松本 雅史

さて、音楽会に向けての練習が進んでいることと思います。

音楽といえば、心と心をつなぐ奇跡のエピソードに溢れていますが、今朝は、実際に第1次世界大戦で起きたことをお話ししたいと思います。今から約100年前、ヨーロッパを中心に世界の国々が2つに分かれての戦争がありました。この戦争で、飛行機が初めて兵器として使われました。第1次世界大戦といえます。フランス北部では、イギリスとドイツが戦っていました。戦争が始まって5ヶ月たったクリスマスの夜に、イギリス軍のある将校は、ドイツ軍からドイツ兵の歌う「きよしこの夜」を聞きました。これを聞いたイギリス兵たちも、英語で「きよしこの夜」を歌いました。そして夜が明けると、両軍の兵士はそれぞれの陣地を出て、お互いの家族の写真を見せ合うなどの交流を始めました。また、別の戦線では、クリスマスの日にドイツ人のテノール歌手が陣地で歌っていたところ、フランス軍の将校がかつてパリ・オペラ座で聴いた歌声と気づいて拍手を送ったのでした。その歌手が思わず誉めてもらったお礼の挨拶に駆け寄ったことから、他の兵士たちも陣地から出て敵の兵士たちと交流することになった、というエピソードも史実として残っています。この予期せぬ事件は「クリスマス休戦」とも呼ばれ、「戦場のアリア」という映画にもなっています。敵味方を分ける国境はあっても、音楽には境界線がなく、同じ気持ちで祖国を想う兵士達に友情の交流を生んだのでした。短い練習期間ではありますが、みんなには、何よりも音楽のもつ楽しさ、美しさ、豊かさをじっくり味わう音楽会にしてもらいたいと思います。いい音楽会にしましょう。これで、お話を終わります。